

本学の教員養成に対する教育理念は、大学の設置理念に則って、キリスト教ヒューマニズムに基づき、「共生の精神を教育の基盤として、心の問題への取り組みを通して他者のために自分を役立てる人人の育成を使命とする」(学則第1章第1条2)である。

本学は、人間学部心理コミュニケーション学科に「英語教職課程」と看護学部看護学科に「養護教諭課程」の2種類の教職課程を持ち、共通して、質量ともに充実した「共通教育」との協力関係により、幅のある教諭を輩出することを目指している。その教諭像は「心」、「共生」、「ケア」の3点を兼ね備えた教諭である。現代社会において、子どもたちが生きる状況はますます複雑化し、いじめをはじめ様々な困難を抱えて子どもたちは日々を過ごしている。その子どもたちの心を大切にし、一人ひとりの子どもたちを愛する教育者を育てることが本学の大学としての教員養成の理念である。

(ア)心：【こころの分かる教諭】子どもたちの多様性の幅はますます広がっている。この多様性に対して、対応していくためには子どもの「こころ」を共感的であることはもとより、それに加えて科学的、客観的な方法で理解していかなければならない。共通教育においては、本学の強みでもある心理学系統の科目の履修を必修・選択を含めて配置している。

(イ)共生：【インクルーシブな環境に対応できる教諭】義務教育はインクルーシブな教育が標準となってきている。インクルーシブな教育は一方通行の教育ではなく、相互扶助、共生の精神のもとに行われなくてはならない。本学の共通教育を通して共生の精神の重要さは強調されている。

(ウ)ケア【心身のケアが出来る教諭】建学の精神の中核にケアの精神を配置し、心理と看護を持った大学の教職課程の強みとして、心身のケアが出来る英語教諭と養護教諭、看護の専門教育を受けた養護教諭の育成を目指している。